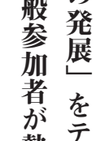
7月2日・3日の
大会直前リポート

全国産地シンポジウム『2010ブルーベリー in 茨城』

「マーケティング強化によるブルーベリー産業の発展」をテーマに、ブルーベリー大国に飛躍した茨城の誇りと課題を生産者と一般参加者が熱く語り合います。



栽培の発端

アントシアニンを多く含み、視力改善に良いとうたわれるブルーベリー。現在150以上もの種類があります。

当市で栽培するきっかけとなったのは、平成12年の米の生産調整でした。市の助成をもとに、転作作物の一つとして注目されました。翌13年には、市新作物推進協議会が発足し、ブルーベリーをはじめ、イチジクやレモンなどを市の特産にしようと栽培を奨励しました。

現在、かすみがうら市のブルーベリー作付面積は、つくば市に並ぶ約21ヘクタール。長野、群馬に次ぐ全国3位の茨城県で、2市が約半分を占めるまでになりました。生産者数が多いつくば市に比べ、かすみがうら市では、1ヘクタール以上の栽培者が6人いるなど、大規模生産が行われています。

第❶日目　7/2（金）
（つくば国際会議場）
講演・パネルディスカッション・交流会

第❷日目　7/3（土）
産地見学（宍倉の坂尚武氏・圓城寺英男氏・圓城寺正道氏の農園）と市郷土資料館から観光帆引き船を見学

※見学船の出航は予定されていません。

10年ぶりの開催

前回つくば市で行われた全国産地シンポジウムから10年が経ちます。今回は、茨城県の「飛躍するブルーベリー」を全国に紹介するとともに、時代を先取りした「ブルーベリー果実の機能性」の最新研究成果について果樹研究所の専門員の特別講演、また、ブルーベリー産業を一層発展させる今日的課題である「マーケティング戦略」のパネルディスカッションが行われます。

2日目には、当市の3カ所の圃場で百数十種のブルーベリーを見学し、生産者と一般参加者とが語り合う交流が予定されています。

シンポジウムへの参加は締め切りとなっています。
あらかじめご了承ください。

問農林水産課　☎内線 2503

実行委員長に“インタビュー”

加工品の可能性は無限大にある

2010 ブルーベリー in 茨城　実行委員長

坂尚武さん（66 歳）

SAKA NAOTAKE

坂農苑（宍倉）代表／茨城県地域特産果樹研究会会長／市新作物推進協議会会長／市ブランド化推進協議会会員

シンポジウムの最大のテーマは、生食の「市場販売」から企業などとタイアップし、マーケティングを意識した加工品などの「商品販売」への転換です。茨城県がブルーベリー大国として成長する中、今回の大会がそのきっかけづくりになれば良いと思います。

ブルーベリーは、他の果実と違い加工品としての可能性が無限大にありますので、甘みや酸味の配合を常に試行できるよう百数十種の樹を植え対応することも大切なことと考えています。また、花や紅葉した枝物の出荷など、さまざまな販売方法が考えられます。産地としての販売力をさらに高めるためには、生産者同士の連携体制を整えることも必要です。

新種や、商品の開発には根気が必要ですが、酸っぱいからといって食べたくないと、お子さんが直に摘んで食べた甘さにびっくりし、後日に再来園してくれたときなどは、生産者として「本物の味が分かってくれたのでは」と、とても嬉しく感じます。

今後も、第2の人生を、ブルーベリーの生産と商品開発に注ぎ、また、「宣伝部長」として地域に貢献できれば光栄に思います。

ブルーベリーリキュール「霞恋」のほか、市内の農園でジュースやジャム、アイス、葉茶などの加工品が作られています。また、パイやパンへの使用も取り組まれています。

摘み取り農園

市内には、ブルーベリーの摘み取りを行える農園があります。詳しくは農林水産課へ問い合わせください。